



正しく安全で楽しい
ふれあい活動
イベントづくりをめざして

人と動物の

ふれあいハンドブック

発行 ペットの文化と未来を考えるプロジェクト
事務局
〒106-0045
東京都港区麻布十番4-6-8二進ビル4F
03-6459-4778
<http://pet-project.jp/phc/>

制作 一般社団法人ふくしまプロジェクト
監修 山崎恵子
イラスト オカタオカ
デザイン 千葉佳子 (kasi)

Introduction

はじめに

動物を飼ったことがない人
家で飼うことができない人
そんな人でも
ふれて感じるができる
それが動物とのふれあい活動です
それは決して特別なことではありません
大事なことは正しい動物との接し方を知ること
事故や怪我がないように注意すること
優しい心で接して動物たちに受け入れてもらうこと
動物の柔らかさや暖かさを感じる
そして命を感じる
ふれあい活動で動物からもらうのは
笑顔や豊かな気持ちや元気な生活です
ふれあい活動で最も活躍してくれるのは動物ですが
動物にまかせっぱなしにはしないで
きちんと準備をして安全に楽しみましょう
そして動物の幸せについても考えてみてください
あふれてくるのはみんなの温かい笑顔です
さあ、準備をはじめましょう

contents

目次

基礎編

ふれあい活動ってなんだろう？

ふれあい活動入門

ふれあい活動の目的ってなんだろう	4
ふれあい活動にはどんなものがあるだろう	6
動物の福祉をきちんと守ろう	10

実践編

ノウハウと留意点

事前準備

1 動物の適性を見極めるための留意点	12
2 動物を扱う人(ハンドラー)の留意点	14
3 ふれあい活動の会場選びとプログラムの設計をしよう	16
4 ふれあい活動に参加する人の留意点	20

ふれあい活動の目的ってなんだろう

ずっと昔から私たちといた動物たちは喜びや安らぎをたくさん与えてくれます



古 代ギリシアでは、重い病に苦しむ人の気分を改善させるために乗馬を体験させていました。また、古代ローマ帝国時代には、戦場で傷ついた兵士たちのリハビリテーションに馬が用いられていたといひます。動物との関係が肉体的にも精神的にも私たちによい影響を与えてくれることは、古くから知られていました。動物が心安らぐ存在であるからこそ、私たちは犬やネコ、鳥などさまざまな動物をペットとして一緒に暮らしてきました。そして実際に、動物にふれることでストレスや血圧が低下するなどの効果も報告されています。動物とのふれあい活動は、動物にふれる楽しさと同時に、こういったさまざまな良い効果を得ることを目的として行われています。

目的 1 動物を楽しむ

なによりも動物とのふれあい活動は楽しい体験です。動物を飼ったことがない人や触ったことのない人はドキドキしながら、犬やネコを飼っている人は自分の家の動物とどんなところが同じでどんなところが違うのかを感じながら動物にふれると、自然に笑顔があふれます。見つめたら見つめ返してくれたり、動物と一緒に聞き耳を立てたり。そんな、いつもならなんでもないひとつひとつの動作が特別なものになる時間。どんなにかわかったか、まわりのみんなに伝えてあげる時間も楽しんでください。

目的 2 動物を知る

ふれあい活動を通じて、動物にどう接するかを学ぶことができます。散歩している犬がかわいいからといって、すぐに駆け寄り手を出したら事故のもとです。動物が怖がったり警戒しているときはどんなときか、それはどんなしぐさに現れるのか。動物を驚かせないで仲良くなるにはどうしたらいいか、どんなものは食べさせたらだめなのか。しっかり学んで動物とふれあうことで、事故や怪我を防ぐことができますし、動物のことがもっと知りたくなるはずです。

目的 3 心を豊かにする

動物にふれることは楽しいことです。その温もりやフワフワとした手触りはなにものにも代えがたい気持ちよさです。動物とのふれあいは共感する心を育て、対人関係にも良い効果をもたらします。動物の存在は、不安を減らし、気力を増すことも知られていますし、命にふれ命の暖かさを感じることは、人の気持ちや周囲の環境に目を向けるきっかけにもなります。動物と一緒にいると、精神的に満たされ、命と自然の調和を感じることができます。

目的 4 動物で元気になる

古くから、乗馬が痛風や神経疾患などに良いとされる記録があります。19世紀のクリミア戦争で多くの命を助け、クリミアの天使と呼ばれたナイチンゲールは「小さなペットは患者さんにとって素晴らしい伴侶となる」と書いています。病気を患っていないなくても、特に高齢者にとっては発話の機会になったり、動物と接することで感覚が刺激されたりと、健康に良い効果があることはたくさん報告されています。また、ペットといることでひどい抑うつ状態を避けられることもあると言われてしています。

目的 5 みんなとつながる

動物がいると、その動物を取り囲んで自然に人の輪ができます。動物にふれながら、動物のことを話すことで、会話のきっかけにもなり、普段はコミュニケーションが苦手な人もいつのまにか周りの人と楽しく会話ができたりします。こんなことも動物の持つ不思議な力のひとつだといえます。動物を通じて多くの人とつながって孤独感から解放され社会につながったりと、動物はたくさんの方の生活を助けてくれます。

ふれあい活動にはどんなものがあるだろう

◎子ども向け

いつのまにか動物とふれる機会が少なくなってしまう子どもたちにあらためて動物のぬくもりを感じて欲しい



子ども時代に、自然や動物にふれて感じることは、人格の形成にとっても大切なことです。

動物への接し方や、観察する力、他者への思いやりの気持ち、命の大切さなど、動物はたくさんのことを教えてくれます。しかし昔にくらべて、こどもが生き物と接する機会は少なくなっています。

人と動物の関係を研究する国際組織である「人と動物の関係に関する国際学会 (IAHAIO)」では、1995

年にジュネーブで行った国際会議で「ジュネーブ宣言」を採択しましたが、そのなかで学校教育における子どもたちと動物とのふれあいの重要性について「学校の授業にコンパニオン・アニマルに関する教育を取り入れ、正しい動物とのふれあい方を通じて、子供たちの心の成長に欠かすことのできない動物の大切さを児童教育に活かす」と宣言しています。

学校での動物飼育

昔から、学校での動物飼育の教育的効果が注目され、多くの幼稚園や小学校で小動物の飼育が行われてきました。子どもたちがみんなで楽しく動物を飼うことは、生き物に対する興味や、命の大切さや責任感、社会性、協調性、思いやり、忍耐力などを育みます。場合によっては、大事に飼っていた動物の死に遭遇するかもしれません。そういったことも、子どもたちにとっては大事な経験になるはずです。飼育している動物が元気なときと具合が悪くなったときはどこが違うのか。そんな観察力も育まれます。

ただし学校で飼うときは、放課後や休みの日でも動物が快適に暮らせるように、住む場所を整えたり、お世話をする人を決めることが大事です。地域の獣医師の先生にも協力してもらって、みんなの動物が健康で安全に暮らせるようにしてあげましょう。

動物の訪問活動

学校で飼うことは難しくても、子どもたちに動物とふれあってほしい。そんな思いから、各地で動物の訪問活動が行われています。ハンドラーと呼ばれる人(多くの場合はその動物の飼い主です)が動物をつれて子どもたちを訪れ、たくさん子どもたちに動物とのふれあいの時間を作ってくれます。訪問活動は動物にふれあうことのほか、普段の生活で動物に出会ったときにどのように接すればいいのかも学べるいい機会です。

まずは飼い主に触っていいかを聞き、自分の手の匂いをかがせ、驚かせないように手を伸ばす。犬やネコがどんな仕草をしているときにストレスを感じているのかを知れば、普段の生活で不要な事故を防ぐことにも役立ちます。言葉だけではなかなか教えることのできない接し方を、子どもたちに体験して学んでもらいましょう。

◎ 高齢者向け

閉じこもりがちになる生活にも
動物たちは笑顔と元気を運んでくれます



少 子高齢化はますます進んでいます。そして同時に増加しているのが、ひとり暮らしの高齢者世帯や高齢者だけの世帯。高齢者施設に入居したりデイサービスを受けるお年寄りも増え続けています。高齢者の方々も、動物とふれあうことで生きがいや張りあいが生まれます。動物と接することで手足を動かしたり、声を出したり。動物を通じてのコミュニケーションも期待できます。

高齢者施設への訪問活動

各地で高齢者施設への動物の訪問活動が盛んに行われています。これは動物介在活動のひとつです。集まったみなさんは最初はごちなくとも、動物を囲んでいるといつものまにか会話と笑顔があふれてきます。訪問活動で大事なのが、事前に会場を確認して危険を取り除く「サイトアセスメント」です。施設のスタッフとも十分に事前の打合せを行い、事故や怪我がなく安全にふれあえるように準備をしましょう。動物が嫌いな人もいますから、その配慮も忘れずに、みんなが楽しいふれあい活動にしましょう。

高齢者の飼育支援

高齢者がペットを飼うことにはメリットがたくさんあります。ペットがいるので生活にリズムができますし、お世話をすることは生活に充実感を与えてくれます。また、発話をしたり、近所のみなさんとの会話のきっかけになったりと、社会的な効果も期待できます。その一方で、体力的に不安があるためにペットを飼うことを難しく感じている方も多いのも事実。そんな不安を取り除き、定期的にお宅を訪問して飼育のお手伝いをするなどで、安全に飼ってもらい、飼育放棄を防ぐ取り組みはこれからの社会にますます求められてきます。

◎ その他

動物にふれることと同じように
動物のことを考えるのも大事です



学 校や高齢者施設以外にも、動物とふれあうことができる場所はたくさんあります。最近は動物ふれあい活動に力を入れている自治体の動物愛護センターも増えてきましたし、各地ではドッグショーや動物に関するイベントなども多数行われています。また、動物に直接触れなくても大切なことは学べます。たとえば動物のことを考えたり感じたりして命を学ぶこともひとつの形ですし、多くの方にその機会が与えられるよう、情報を提供することも必要な活動です。

動物愛護センターなどでのふれあい体験

全国各地にある動物愛護センターや保健所の中には、多くの人に動物とのふれあいを通じて命を大切にすることを育んでもらおうと、さまざまな取組を行っているところがあります。犬のお散歩やネコやうさぎとのふれあい、なかにはなかなか飼うことのできない豚やヤギ・アルパカなどの動物とのふれあい活動を行っているところもあります。獣医師の先生やスタッフが動物とのふれあいの仕方をおしえてくれることもありますから、お住まいの地域の役所やお近くの動物愛護センターに問い合わせしてみてください。

動物の写真コンクールやドッグショー、ペットイベント

動物に直接ふれなくても、写真を撮ったり動物との思い出を作文にすることは、動物のことにじっくりと考えるいい機会です。また、各地で動物フェスティバルなどの様々なイベントが行われていますが、そういったなかでは獣医師の仕事の体験コーナーなども行われています。また、ドッグショーやフリスビードッグのような大会では、普段は見えないようなカッコいい動物を見ることもできます。動物に触れるだけでなく、さまざまな機会を通じて、なぜ動物たちが可愛いと思うのか、そしてどんなところが好きなのか、そんなことをじっくり考えることも、大事な動物とのふれあいです。このように動物に直接触れなくても、動物の正しい飼い方を広めようとしている団体の活動に参加することで、新しい知識を身につけることができ、参加者との交流を通じて多くを学ぶことができます。

動物の福祉をきちんと守ろう

動物たちだって私たちと同じ
疲れもするし、いやがりもするのです



可 愛い動物がいると、ついついついまでもふれていたり、一緒に遊んだりしたいもの。もちろん動物にとっても遊ぶことは楽しいことです。でもなにごともし過ぎはよくありません。動物だって私たちと同じように疲れるし、嫌なことをされたり窮屈なところに無理やり押し込まれたらストレスを感じるのです。私たちがされたくないように、動物たちにもストレス

をあたえてはいけません。そのために大事なのが「動物の福祉を守る」ということです。動物の福祉を守る、つまり動物にストレスを与えたり嫌な思いをさせないために大事なのが「5つの自由」という考え方です。どんなふれあい活動をするときでも、この5つの自由を念頭に置いて、動物が快適に、そして私たちと一緒に楽しい時間が過ごせるように気をつけましょう。

5つの自由

1

飢えと乾きからの自由

動物が、きれいな水をいつでも飲めるようになっていませんか？
動物は、健康を維持するために栄養的に十分な食餌を与えられていますか？

2

肉体的苦痛と不快からの自由

動物は、適切な環境下で飼育されていますか？
その環境は、常に清潔な状態が維持できていますか？
その環境に鋭利な突起物のような危険物がないですか？
その環境には、風雪雨や炎天を、避けられる屋根や囲いの場所がありますか？
快適な休息場所がありますか？

3

外傷や疾病からの自由

動物は、痛み、外傷、或いは疾病の徴候を示していませんか？
もしそうであれば、その状態が診療され、適切な治療が行なわれていますか？

4

恐怖や不安からの自由

動物は、恐怖や精神的な苦痛（不安）の徴候を示していませんか？
もし、そのような徴候を示しているなら、その原因を確認できますか？
その徴候をなくすか軽減するために的確な対応がとれますか？

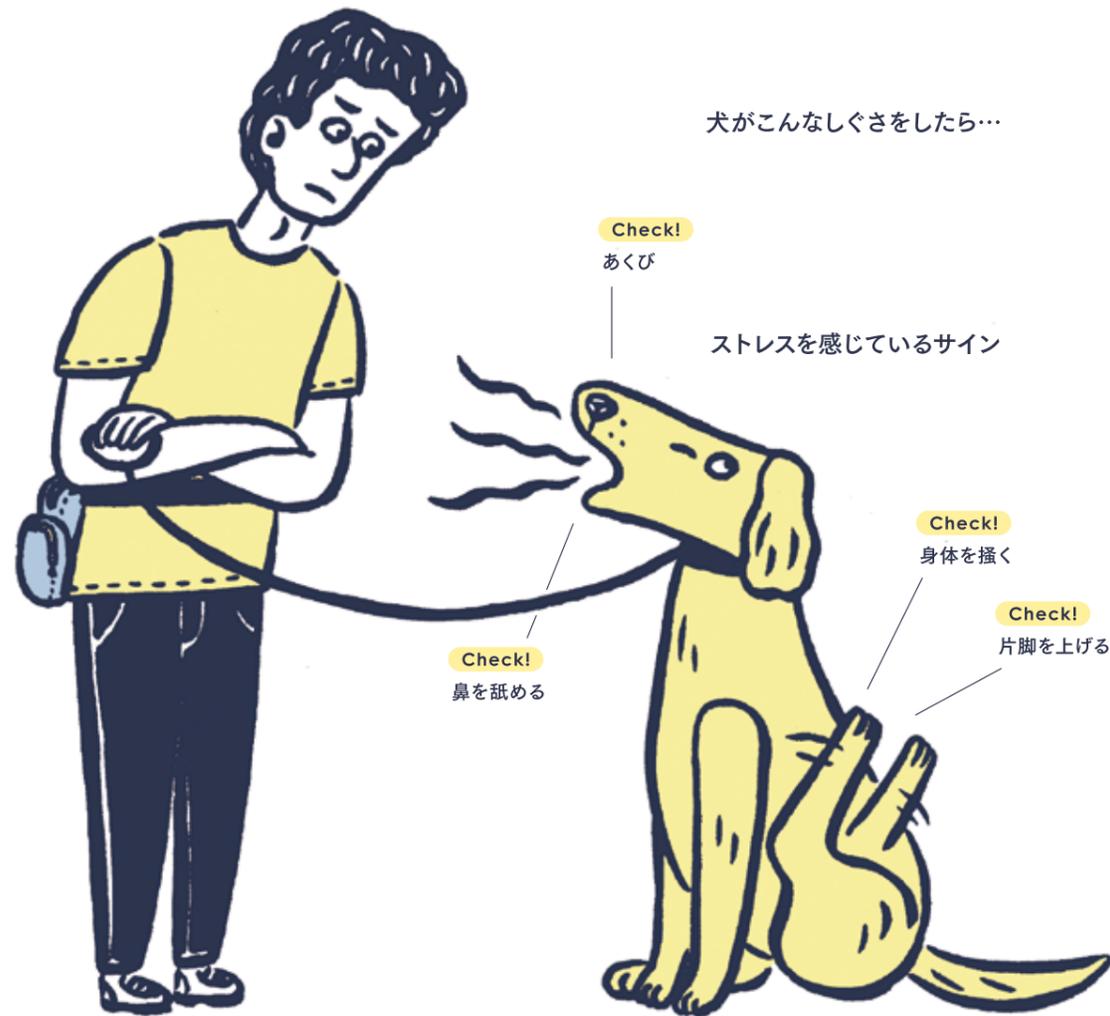
5

正常な行動を表現する自由

動物は、正常な行動を表現するための十分な広さが与えられていますか？
作業中や輸送中の場合、動物が危険を避けるための機会や休憩が与えられていますか？
動物は、その習性に応じて、群れあるいは単独で飼育されていますか？
また、離すことが必要である場合には、そのように飼育されていますか？

動物の適性を見極めるための注意点

このようなサインが出てしまう動物は
ふれあい活動に参加させないようにしましょう



ハンドラーは、犬がストレスを感じていないか常に目配りしましょう。
あくび、鼻をなめる、身体を掻く、片足を上げる…などのしぐさは、
ストレスを感じているというサインである可能性が高いです。

ふ れあい活動に動物を連れて行くハンドラー
(飼い主)は、まずは動物の適性を見極め、
その動物が「ふれあい活動に参加させるのにふさわ
しい性格や行動か」を判断することが大切です。
動物がふれあい活動への適性をもっているかどうか
チェックする際に、このページのイラストのようなサ
インが出てしまう動物(特に犬)は、残念ながら活動
に不向きです。無理にふれあい活動に参加させるこ
とは、その動物にとってストレスになりますし、何より
も咬傷事故等の原因になる可能性があるため、ふれあ
い活動に参加させないように注意しましょう。

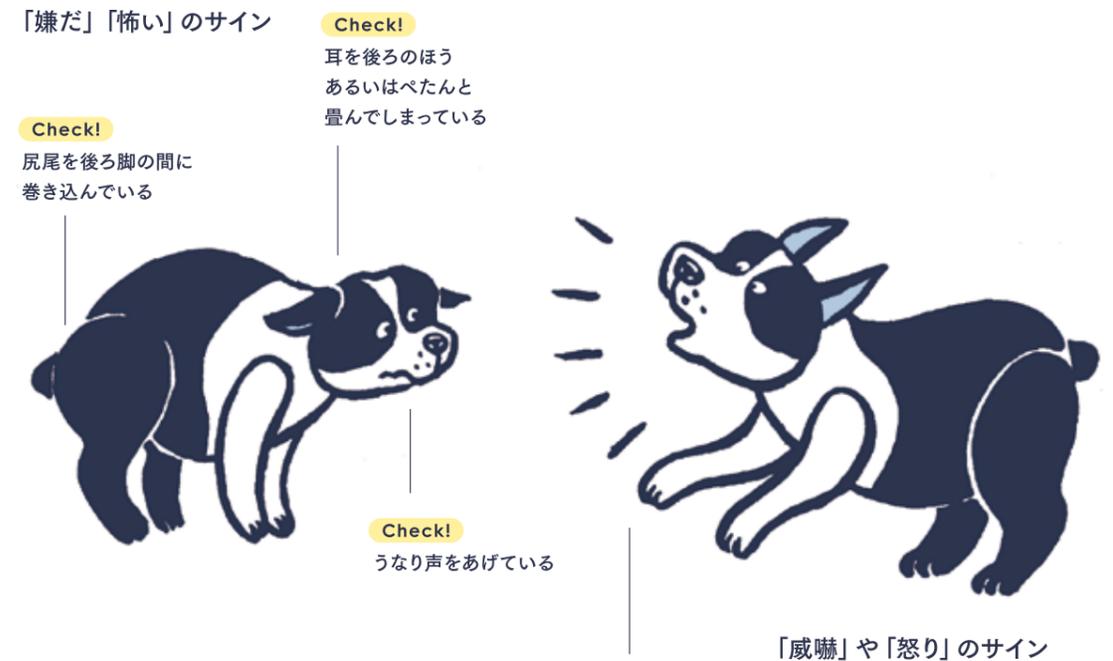
犬やネコのほかに
ふれあい活動に参加しているのは、次の動物です。

- ・うさぎ
- ・モルモット
- ・ハムスター
- ・小鳥
- など

カメ、イグアナ、トカゲ等のエキゾチックアニマルは行動が予測でき
ず危険を伴うこと、また人と動物の共通感染症についてまだ解明さ
れていないことから、参加はやめましょう。またフェレットは、イン
フルエンザ等の感染や臭い、そして行動が予測できないため危険が伴
うことから、ふれあい活動には不向きです。またP6で紹介した
IAHAIOの白書にもある通り、野生動物はふれあい活動には使わな
いことも覚えておきましょう。

その動物が「ふれあい活動」に
向いているかどうかチェック!

人が好きで物おじしない
他の動物を攻撃したり怖がったりしない
見慣れないものや大きな音にも動じない
(犬の場合は) オスワリやマテなどのしつけができていて、
飼い主がコントロールできる…など。



このようなサインを示す犬は、
咬傷事故を防ぐためにもふれ
あい活動には参加させないよ
うにしましょう。

動物を扱う人（ハンドラー）の注意点

ハンドラーの適性を見極め
ふれあい活動のために
必要な準備ができるのか確認し
全員でルールを守りましょう

ハンドラーの持ち物

- ・おやつ
- ・水
- ・ペットシート
- ・予備のリードと首輪
- ・キャリーバッグやケージ
- ・食器



ふれあい活動中、動物が興奮したり落ち着かなくなった場合には会場から退出し、キャリーバッグやケージ、バリケン等の中で休憩させます。静かに休める環境も準備しておきましょう。

前日までに
シャンプーや爪切り

首輪、鑑札、
狂犬病注射済票は
必ず装着しましょう

ま ずはハンドラーとしての適性について検討してみよう。ふれあい活動にとっても重要なのは、参加者とのコミュニケーションスキルや、事故防止等の知識（P12-13で紹介したような動物のストレスサインなど）です。また、感染症予防についての準備もきちんと行います。

自分の動物がふれあい活動への適性があると判断できたら、腸内細菌検査や寄生虫の有無を調べるなど年に1回は健康診断を行い、そしてワクチンや狂犬病予防接種は毎年必ず済ませます。また通常のお手入れのほかに、ふれあい活動の前日までにシャンプーや

爪切りをして清潔を保ちましょう。

さらにふれあい活動に連れて行く動物が、活動中にどのような状態にあるか…ということは、ハンドラーと参加者の双方が理解している必要があります。特に「犬が怖がっている」「嫌がっている」というサインを見逃すことは、思わぬ咬傷事故の原因にもなりかねません。子どもたちに対しては、「動物との正しいふれあい方」を理解してもらうためにも、事前、あるいは活動中に、「こういうしぐさをしたら注意」という情報をきちんと伝えましょう。

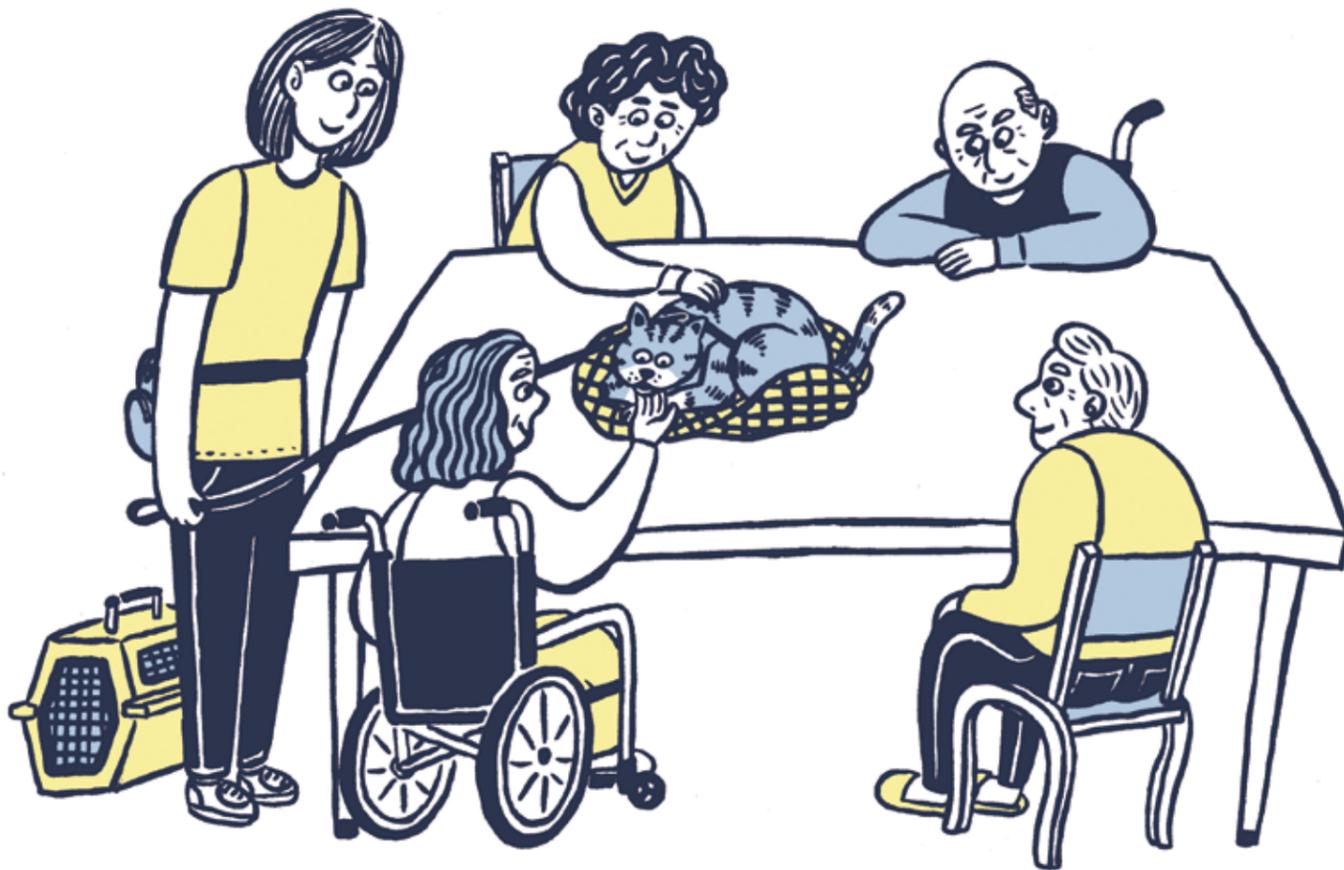
動物の体調が悪い時には絶対に無理をさせない

ふれあい活動に連れて行く動物は、心身ともに健康で元気でなければいけません。活動の当日に動物が元気がない、あるいは体調が悪そうな時には絶対に無理をさせず、訪問先や活動グループの責任者に報告した上で、その日の活動は休みましょう。

活動の後は参加した動物たちのストレスを解消させてあげましょう

ふれあい活動の後は、ゆっくり休ませたり、多めに散歩をしたり、あるいはたくさん遊ばせたりして、参加した犬やネコのストレスを解消させてあげましょう。またストレスから下痢をするなど体調を崩していないかどうか、目を配ることも必要です。

ふれあい活動の会場選びとプログラムの設計をしよう



事前に訪問し会場を検討する
サイトアセスメント。
安全にふれあい活動を行うには
必ず行わなければならない
大切な準備です

誰 にどのような「ふれあい活動」を行うかを
決めたら、会場選びとプログラムの設計を行
います。実際の活動の前に会場を確認し、危険を取り
除くことを「サイトアセスメント」といいます。会場を
決め、その場所を使って安全にふれあい活動を行う
ためにやらなければならないことを検討していきます。

まずは会場内で迷わずに移動ができるよう、訪問
前に施設の地図・間取り図を入手します。ない場合
にも自分で作成できるよう、紙とペンを用意しておき
ましょう。そして、地図・間取り図を用いて人の流れ
や階段、非常口などの場所を把握します。

なお、動物をその場へ連れて行った時の反応を予
測するために行うのがサイトアセスメントですから、
行う際には動物は連れて行きません。サイトアセスマ
ントは施設の規模や内部の複雑さにより、1時間から
数時間かかる場合があります。

ア セスメントのために会場に入ったら、以下の
項目について評価を行います。

- ・場所
- ・交通手段
- ・駐車場の有無
- ・駐車できる台数
- ・会場の規模
- ・敷地内の特徴
- ・入口の位置
- ・音のレベル
- ・スタッフ数

忘れてはならないのが、同じ会場にいることが想
定されるアレルギーの人、あるいは動物が嫌いな人
への配慮（対処法）です。動物とのふれあいを行うエ
リアを、アレルギーや動物嫌いの方々のいる場所の
近くにしないこと、そして両者の動線が交わらないよ
うに配慮しましょう。

◎ サイトアセスメントを行う際のチェックポイント

ふれあい活動を行う場合、動物を連れて行く側も、動物を迎える側も、そして動物も、できるだけ清潔かつ快適で、そして事故なく安全にふれあい活動が行われるよう心がけることが大切です。いくつか具体例を紹介します。

Check!

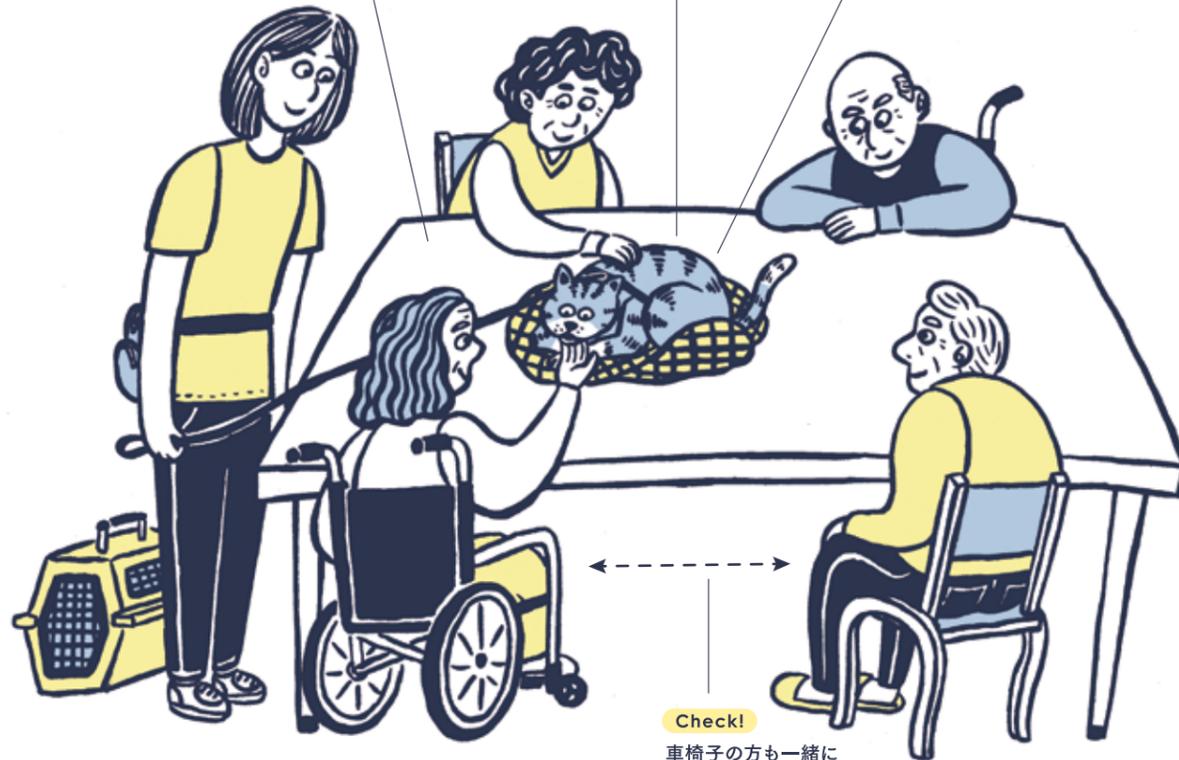
テーブルの上はきれいに
カップなどは片付けましょう

Check!

動物の表情や仕草から
ストレスを感じていないか
気をつけて観察しましょう

Check!

小動物の場合には
タオルのような布にくるみ、
テーブルや膝の上などの
安定したところに乗せましょう



Check!

車椅子の方も一緒に
テーブルを囲む場合には
ゆったりとスペースを取りましょう

ふれあい活動を行う テーブルの上はきれいに

ゴチャゴチャと物がちらかっている場所では、安全にふれあい活動を行うことができません。整理整頓が必要な場合には、サイトアセスメントの後、会場となる施設の担当者にその旨を伝えましょう。たとえばテーブルの上にカップなどがあると、倒して中身をこぼし人や動物、あるいは周囲を汚してしまう可能性があります。また車椅子の方も一緒にテーブルを囲む場合、余裕をもって動けるスペースを確保する配慮も必要です。

参加者が乱暴な動きをしないよう、 上手に誘導しましょう

小型犬の場合には小型のベッドに、またネコ、あるいはうさぎなどの小動物の場合にはタオルのような布にくるみ、テーブルの上あるいは参加者の膝の上にそっと乗せるなどします。ネコの場合にはリードやハーネスをつけておきましょう。ハンドラーは常に動物のそばにいて、参加者に動物に手を伸ばしてもらってふれあい活動を行います。参加者が乱暴な動きをしないように、そっと撫でる、ぬくもりを感じるなど、やさしい動きになるように目配りし誘導しましょう。

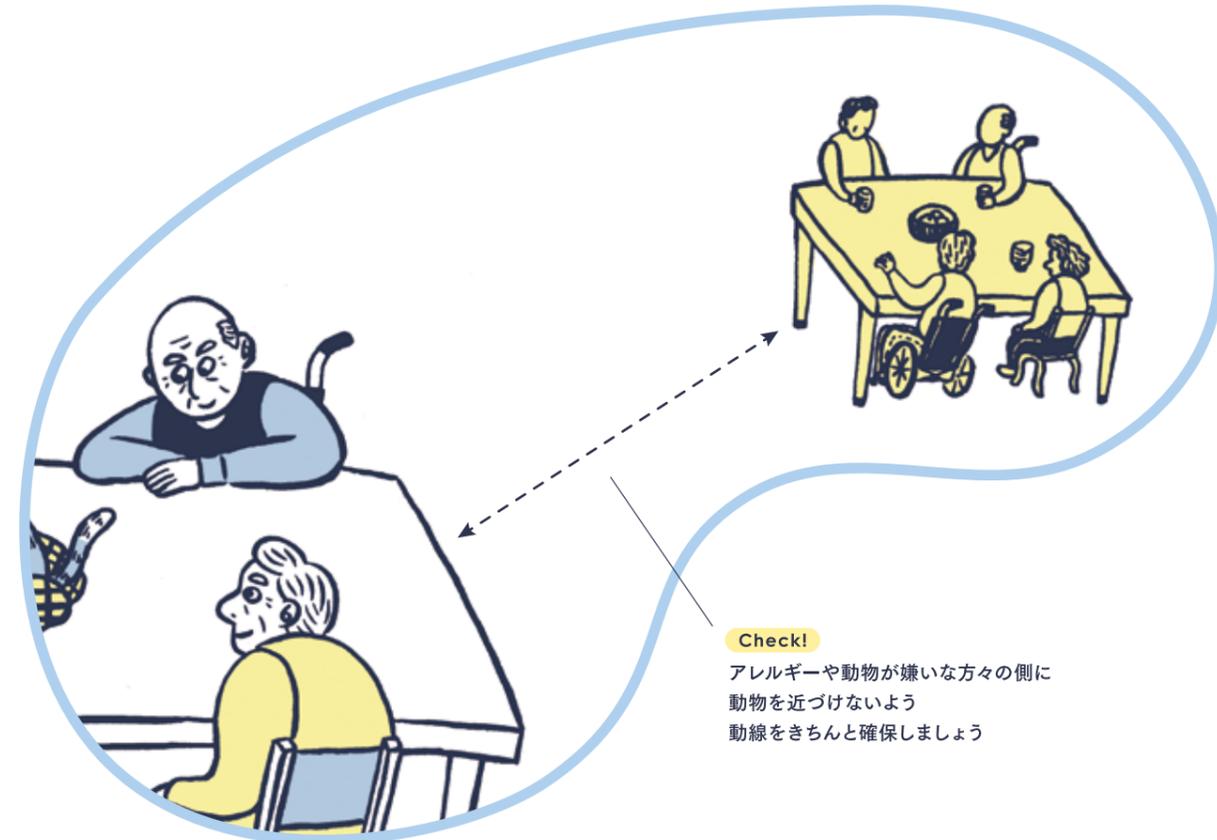


Check!

キャリアバッグ等
動物が休める場所を用意しましょう

動物にストレスをかけない ふれあい活動を行いましょう

動物がストレスを感じていたり、怖がっている様子が見られる場合、あるいはひとりの参加者が動物を独占するような場合には、「他のテーブルへ行ってきますね」など、なるべく自然にそのテーブルを離れ、動物をキャリアバッグ等に戻して休ませましょう。ふれあい活動自体も動物のストレスを考慮し、長時間にならないようにするのが望ましいです。



Check!

アレルギーや動物が嫌いな方々の側に
動物を近づけないよう
動線をきちんと確保しましょう

アレルギーや動物が嫌いな方への 配慮を忘れずに

サイトアセスメントで会場となる場所（施設）を訪れた際、先方の担当者との打ち合わせを行い、アレルギーのある方、また動物が苦手、あるいは嫌いな方と、ふれあい活動を行う方々との座る場所は、一定の距離をおくように依頼します。また、動物を休憩させる場所（別の部屋や廊下など）と、ふれあい活動を行うテーブルの間をハンドラーと動物が移動する際、アレルギーや動物が苦手な方のグループの側を通ることがないように、動線をきちんと分けることも大変重要です。

ふれあい活動の持ち物は？

ふれあい活動に参加する犬やネコなどの動物のためのリードや首輪、水を飲ませるための器、おやつ、ペットシートなどはもちろん必要ですが、それ以外にも次のようなものがあると安心です。衣服や床、椅子等に付着した毛を掃除するための粘着テープ、アルコール等の除菌スプレー、雑巾やタオル、救急箱、予備のリード

ふれあい活動に参加する人の注意点

ふ れあい活動に参加する人（高齢者や子ども）は活動を安全に、そして楽しく行うために、活動に参加する前、あるいは活動中に、次のイラスト1から8のような点に注意する必要があります。特に体調に関しては、傷口があり、そこがまだふさがっていない場合や、病気に対して抵抗力が弱い場合には、参加を慎重に検討する必要があります。

犬にはじめてふれる時にはこんな注意点を参加者（特に子ども）に伝えましょう。

- 犬が驚いたり怖がったりしないようにするには、最初の挨拶が大切。まず、ハンドラー（飼い主）に「さわっていいですか?」と聞きましょう
- いきなり頭を撫でるのではなく、最初に握りこぶしの甲の側を犬の鼻先に出し、その匂いを犬に嗅がせることから始めましょう
- 犬が手の甲に続いて他の部分の匂いもかぎ始めたら、様子を見てそっとふれてみましょう
- 手を伸ばす時、犬は一般的に上から覆い被さるように伸びてくるものを怖がるので、手は犬の上からではなく下、あるいは横から伸ばすように気をつけましょう



1 体調が悪いときは参加しない



2 手をきれいに洗っておく



3 大声を出さない



6 急に動かない



4 どうやってさわればいいのかハンドラーに聞く



7 長い時間さわり続けない



5 やさしくふれる



8 ほかのことをしながらさわらない



このハンドブックを読んで

動物との
ふれあい活動イベントを
してみよう！

と思ったら

安全に行えばみんなが楽しいふれあい活動イベント。
しかし動物が好きだからとか、
自分は長く動物を飼っているから……
というだけでイベントをしようとするのはちょっと待って。
自分が飼っている動物の生態について知っていますか？
飼っていない動物についてはどう？ どんな病気があるでしょう？
具合が悪くなったときのサインを読み取れますか？
動物を飼ううえでどんな法律を守らなければいけないでしょう？
ふれあい活動イベントをするためには、
動物に関してより深い知識と経験が必要です。

ふれあい活動イベントには
知識と経験が大事



ペットのことを学ぶなら 愛玩動物飼養管理士が便利

ペットのことを学ぶ方法はたくさんあります。本屋さんにはペットの本がズラリと並んでいて、どんな勉強をどのくらいすればいいのか悩んでしまいます。でも「愛玩動物飼養管理士試験」を受講すると、ペットに関する知識を幅広く深く学べます。動物愛護についての考えかたや歴史、法律、ペットの生理生態、そしてしつけまで幅広い内容を網羅し、法律・獣医学・行動学・栄養学などそれぞれの分野の第一人者の先生が執筆・監修した教材を使った通信教育で、誰でも手軽に受講できます。

長い歴史とたくさんの受講者 支所でイベント活動も体験

愛玩動物飼養管理士は、内閣府許可の公益法人である日本愛玩動物協会が認定している資格。35年以上の歴史があり、全国で14万人以上が認定されています。この資格を取得した人は、日本愛玩動物協会の35の支所でペットの適正飼養イベントなどに関するボランティア活動に参加して、支所長などの手ほどきを受けながら、実践的な体験学習経験を積んでいくことも可能です。

愛玩動物飼養管理士で広がる ペットとの豊かな生活

愛玩動物飼養管理士は、ペットショップやトリミングサロン、ペット関連企業などペットに関する様々な分野で活躍しています。また動物取扱業を行う場合には、事業所ごとに動物取扱責任者を1名以上配置することが義務付けられていますが、愛玩動物飼養管理士の資格を持つことで動物取扱責任者となることができます。国や自治体からの信頼も厚い愛玩動物飼養管理士。動物の習性や適正な飼養管理の知識を得ることができるのはもちろん、社会での活躍の場も大きく広がります。また、日本愛玩動物協会の支所活動などの実績に応じて、さらに「上級愛玩動物飼養管理士」として顕彰する制度もあります。

愛玩動物飼養管理士はこんな資格

受講概要

	2級	1級
受講資格	満18歳以上の人	2級愛玩動物飼養管理士の資格を有する人 (認定登録された人)
受講受験料	30,000円 受講料25,000円 受験料5,000円	32,000円 受講料27,000円 受験料5,000円
認定登録料	5,000円	20,000円
通信教育の内容	<ul style="list-style-type: none"> 愛玩動物飼養管理士の社会活動 動物愛護論I 人と動物の関係学 動物関係法令概説 動物のからだの仕組みと働き 動物の飼養管理 動物のしつけ 	<ul style="list-style-type: none"> 動物愛護論II 動物関係法令 動物の行動と社会 犬と猫の栄養学 動物の遺伝と繁殖整理 動物の疾病とその予防 動物の飼養管理と公衆衛生 自然と人間

資格取得までのステップ



ペットを知るための勉強、 はじめてみませんか？

公益社団法人 日本愛玩動物協会は、動物の適正飼養管理の知識、および愛護精神の普及により、広く人々に生命の尊さを慈しむ心を育て、社会文化の発展に寄与することを目的に設立されました。その目的の一つとして、動物の習性や、飼養管理を学び、それを認定する制度を設けています。

お問い合わせ
公益社団法人 日本愛玩動物協会

03-3355-7855
(祝祭日を除く平日 9:30~17:00)
<https://www.jpc.or.jp/>



ペットのスペシャリストを目指すなら

愛玩動物飼養管理士

学生・主婦から
ペット業界の方まで
約18万人が受講

基本の知識を学びたいなら

ペットオーナー検定

ペットと暮らすうえで必要な
基礎知識を楽しく学ぶ

ペットと暮らすうえで必要な基礎知識を楽しく学ぶ

「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づいて、動物の習性、動物の疾病予防、各種動物の飼養管理、犬猫のしつけ等の知識を通信教育によって学び、所定の試験に合格して協会より認定登録されて得られる資格で、仕事に生かす人も増えています。資格には1級と2級があり、2級を取得すると1級を受験する資格が得られます。

体のしくみ、飼い方、しつけ方、ペットフード、法律・など、ペットを迎え、一緒に暮らすうえで必要な正しい基礎的知識+αを楽しく学ぶことができる検定です。お子様からご年配の方まで、幅広い年齢層で受験いただける内容となっています。ご家族でチャレンジしてみてください。